

芸術書ご担当 様

★こちらの注文書でご注文いただきました書籍は、
ミュージック・ペンクラブ音楽賞 受賞帯にて出荷いたします。

速報！ 「2025年度・第38回 ミュージック・ペンクラブ 音楽賞【クラシック】部門」受賞！

音楽評論家の合議により、クラシック、ポピュラー、オーディオの各部門の優れた演奏、研究・評論・出版などに贈呈される第38回(2025年度)ミュージック・ペンクラブ音楽賞の選考が行われ、研究評論・出版部門の賞を獲得しました。

三月一日のシューベルト

音楽批評の試み

船木篤也 著

「音楽評論は文芸だ」と看破する筆者の雑誌連載に加筆した単行本。音楽批評の可能性に挑み、思わぬきっかけから意外な方向へ発展する道筋が新鮮だ。その語り口は丁寧だが、確信犯的でもある。読み手をみずからのロジックへ引っ張り込み、納得させる一種の牽強付会が快感になる。映画の一場面に流れるシューベルトから原発事故での喪失に思いをはせたり、歌謡曲の一節から深い洞察に突き進んだり、豊富な筆力がほとぼしる佳作。(宮下博)

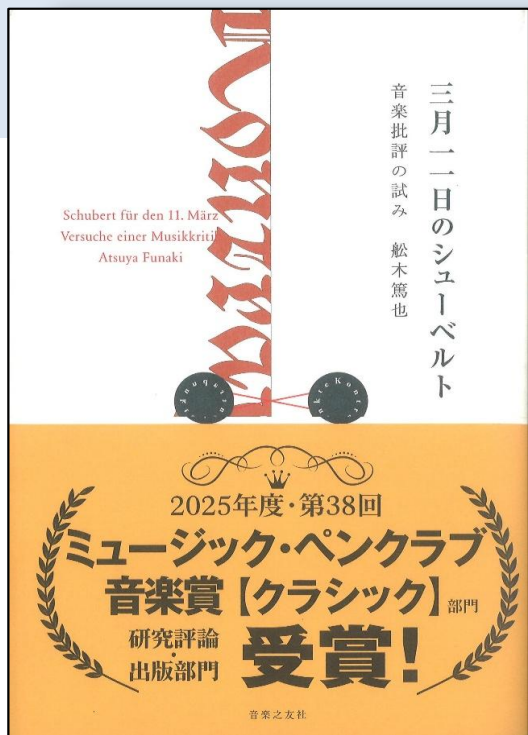
※選考資料より

当代随一の音楽批評家

船木篤也氏による初の単著！ 意外性と刺激に満ちた1冊。

「対旋律が揺さぶる——」。月刊誌『レコード芸術』に2020年1月号から23年7月号(休刊号)まで、22回にわたって連載され圧倒的な支持を得た連載「コントラプンクテ 音楽の日月」に大幅に加筆、書名を変更しての単行本化。「音楽」からの視点と、「音楽とは異なる世界」からの視点を交差させることで、あたかも対旋律が主旋律を引き立てるが如く、音楽の新たな魅力や人生の味わい、世界への問題意識が浮かびあがります。

表題タイトルの章の他、「マーラー×緊急事態宣言」、「バッハ×させていただく」、「ワーグナー×川上未映子」等、意外性と刺激に満ちた音楽批評が展開。



プロフィール

船木篤也 (フナキアツヤ)

1967年大阪に生まれ、東京、横浜、北九州で育つ。広島大学文学部文学科、東京大学大学院人文科学研究科、プレーメン大学に学ぶ。2000年頃より19世紀ドイツ音楽を中心に評論活動を開始。「読売新聞」で音楽評を、NHK-FMで音楽番組の解説を担当するほか、雑誌、演奏会プログラム、WEB等で執筆。朝日カルチャーセンター新宿校、早稲田大学エクステンションセンター中野校で音楽講座の講師。東京藝術大学ほかではドイツ語講師を務める。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』（小学館）、『ドイツ哲学入門』（ミネルヴァ書房）、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論』（平凡社）、など。



ご担当

様

月

日

(貴店名・帳合)

(注文)

ミュージック・ペンクラブ音楽賞 受賞帯バージョン

三月一日のシューベルト 音楽批評の試み
船木篤也 著

冊

四六判・304頁

定価：2,860円(本体2,600円+税10%)

ISBN978-4-276-21014-1

→ ご注文: FAX 03-3235-2148

(株)音楽之友社/営業部 TEL 03-3235-2151